

「夢は秘密に」

初夢ぐらいいは良い夢を見たいもの。しかし、これが見なかなか。そこで他人が見た良い夢を奪い取った人の成功談を致しましょう。

吉備真備きびのまきびといえは奈良時

代の学者・文化人で大政治家。黍団子のふるさと岡山県吉備郡の地方豪族の出自ながら聖武天皇夫妻に重用され右大臣にまで上り詰めた立志伝中の人物です。

この人がまだ若かった頃の話です。近くに夢の吉兆を占う夢解き名人がおりました。そこへ行って話をしていると国司の御曹司が供の者を大勢引き連れてやってきました。御曹司はタベ見た夢の吉凶を占ってもらいにきたのでした。真備は別室に隠れてその様子を盗み見しました。夢解きは「大変良い夢です。あなたはゆくゆく大臣にまでなるでしょう」と告げました。御曹司は喜んで着てきた絹の着物モノを脱いで夢見に与え意気揚々と帰っていききました。一部始終を見ていた真備はこの夢を全部戴こうと考かんがえました。そこで夢解きに「あの御曹司は国司の息子、

4年もすれば都に帰ってしまつて、彼が大臣になつてもこの地にもお前にも何の益も無い。私は郡司の息子で生まれも育ちも吉備の人。私が大臣になればこの地もお前も良いことだらけではないか」と懇々と説諭しました。夢解きは「なるほど、それではあなたが隣の部屋で聞いていたとおりに話してみなさい」。真備は今聞いたばかりの御曹司の夢を自分が見たように語ると夢解きは「大変良い夢です。あなたは今ゆくゆく大臣になつてきたので真備は喜んで着てきた着物を与えて帰りました。その後、彼は遣唐使に随行する官吏の登用試験に合格、安倍仲麻呂らと共に入唐して、当時の先端的知識や技術を習得して帰国。政府の要人として隆々の生涯を終えました。

他方、かの国司の御曹司は、せつかくの夢を奪われて鳴かず飛ばずの人生を終えたように歴史年表のどこにもその名が見えません。見た夢は他人に盗られなぬすいようにすること。これがこの話の教訓ですが、良い夢が見られない人にとつては他人の夢を失敬すること。これもこの話の教訓です。